

市民の皆様から頂いた御意見一覧

① 子育て世帯向けリノベーション住戸に応募できる世帯について		
番号	要旨	御意見内容
1	中学生までの子どもがいる世帯が適当	妥当であると思う。
		中学校修了までの世帯が良い。
		見た感じ小学生までが良いのではとも思ったが、応募者のグラフを見ると、応募できる世帯は広く中学生までとする案が良いと感じた。
		基本的に賛成。
		中学校修了までの子どもがいる世帯。親が子どもの互いの様子を見てあげるのは、この年までは必要だと思う。
		できるだけ応募できるようにした方がよいので、中学生まででよいと思う。
		幅広く応募できることを優先するのであれば、この案が良いと思う。
		末子が中学生までが良い。賛成。
		中学生までの世帯が最良。高校生になると個の芽が生まれるので無理。
		世帯については、このくらいがちょうどいい。
		幅広く応募できるということで中学校修了まででよいと思う。
		前向きに検討された内容で、大変良いと思う。
		案のとおりでいいと思う。
		良いと思う。
		ある程度の子育て世帯が応募できると思うので、大変良い考え方だと思う。
		総論は賛成。
		子育て世帯に限定して、募集枠を増やすのは良いと思う。できるだけ多くの子育て世帯に応募してもらうために、中学生までの子供がいる世帯とすることに賛成。
		妥当な内容と思う。
		案どおり、中学生修了までの子どもがいる世帯が良いと思う。
		妥当と考える。
		応募できる世帯の基準は問題ないと思う。
		子育てで困っている人に提供できるなら、今の案でいい。
		中学校修了まででよい。
		中学生までの子育て世帯として捉えることについては全く異論はない。
		応募条件は適切だと思う。
		これでよいと思う。
		おおむね妥当。
		小学校ぐらいまででもいいと思うが、案は妥当であると思う。
		応募できる世帯(案)についてはおおむね妥当であると思う。
		中学校修了までの子どもがいる世帯が応募でき、良いと思う。
案のとおり、中学校修了までの子どもがいる世帯でいいと思う。		
要件を設けるならば、中学生までの子供がいる世帯かと思う。		
世帯の設定は、そんなものだと思う。		
中学生までの世帯が良いと思う。		
中学生までで適当だと思う。		
案に賛成。親と子どもが互いの様子を見ながら家事や遊び勉強することができ、良い環境で伸び伸び子育てしてほしい。		
主旨には賛同する。		
応募要件としては中学生で良い。		

	<p>乳幼児を対象とするか中学生を対象とするかで、リノベーションする内容が変わるが、ちょうど良い設定だと思う。</p> <p>おおむね賛成。</p> <p>良いと思う。</p> <p>供給戸数が十分多い場合は漏れる可能性がないのでこのままで良い。</p> <p>妥当だと思う。もっとも、どの世帯もこのような設備仕様の部屋に入居希望されるのではと思う。</p> <p>中学生までの世帯でよい。</p> <p>子育てに対する支援ということだと、小学校に入るまでで良いが、中学生までとし、幅広く応募出来るようにするのは公平性が保たれていて良いと思う。</p> <p>中学生までで、子育て世代全体の8割となっていることからおおむね理解できる。高校生の子育て世代の対象外とする理由をもう少し補足していただけると、より理解しやすい。</p> <p>中学校修了までの子どもがいる世帯対象が適当。</p> <p>小学生まででも良いかもしれないが、ある程度の期間、地域で交流してもらうため、中学生までの子どもがいる世帯としたのは良い。</p> <p>末子が中学生までの子育て世帯が8割応募されていることから適当と考える。</p> <p>市の案に賛成。</p> <p>どこかで線を引く必要があるのなら、案は妥当かと思う。</p> <p>いいと思う。</p>
2	<p>小学生までの子どもがいる世帯が適当</p> <p>中学生になると自分の部屋等欲しくなる頃なので、中学入学時に転居する方が出やすいのではないかと。ゆえに小学校修了時までの子どもがいる世帯の方が良いと思う。</p> <p>子どもが多い世帯は、小学生の間は良いが、中・高校生になると今の住居では無理だと思う。子育て向け居住ニーズの考えは良い案と思う。市営住宅の現入居者は賛成だと思う。</p> <p>年配の方が増えてきているので、未就学の子どもと小学校修了の子どもまでにした方が良く思う。</p> <p>親子が互いの様子を見ながら生活することを目指すのであれば、小学生が限度で、中学生ともなるとプライバシー確保のほうが優先されると思う。対象者を広くするというのであれば、高校生も応募可能とするべきで、中学生で区切るということには疑問。</p> <p>小学生修了までの子どもがいる世帯を対象とした方が良い。</p> <p>小学生以下が対象であるなら、中学校修了まで条件を拡大する必要はないと感じる。中学生にもなれば、親が見ながらより、プライバシーを気にしだすので居住ニーズから離れている。</p> <p>コミュニティバランスの改善という目的を踏まえると、長い期間入居いただくことがまちづくりや地域内コミュニティにとっても良いと考える。また、募集世帯に住みたい魅力があるものとする(例えば、小・中・(高)の一貫教育を取り入れた教育・文化を育むまちとして確立し他と差別化)を要件にするならば、小学校低学年が望ましいものとする。そこで応募世帯については、未就学から小学校低学年までとしていくべきと思う。</p> <p>子育て世帯向けにリノベーションするのであれば、子育て世帯に限定するのは当然であるが、中学校終了直前から18歳になった年度末は期間が短いのではないかと。小学生の子どもがいる世帯ぐらいが適当ではないか。</p> <p>①一般住戸と比べて明らかに整備レベル・内容が異なること、 ②引越費用を含め、住替えに対する抵抗を低減させることを前提にすると、もっと対象を絞ってはどうか。 例えば、小学校修了までとするなど。</p> <p>「末子が小学生の世帯」まででよい。小さな子どもがいる世帯向けの住戸と定義しながら、全体の60%超を占める「末子が小学生までの世帯」の入居機会を減少させてまで、「末子が中学生の世帯」を対象に含める必要があるのか大いに疑問である。社会通念上も、中学生を「小さな子ども」側に分類することに違和感がある。</p> <p>実際に居住する期限が長くなるように応募できる世帯を「小学校卒業するまでの子どもがいる世帯」に限定すべきと思う。</p> <p>中学生の子供がいる世帯は応募資格がなくていいと思う。中学生になるとある程度大人向けの設備であっても違和感なく生活はでき、勉強や遊びも一人のできる子や、周りに人がいる方ができるなど、子どもによってタイプがあるので。</p>

		<p>中学生までだと入居から転居まで3～6年までと短期間の入居となり、近隣とのコミュニティ形成の関係で、入居はできるだけ子ども年齢が低い方が良いのではないかと思います。</p> <p>「小学校修了までの子どもがいる世帯」に修正すべきと考える。 (理由) ・「子育て」の定義を明確にすべきで、義務教育以下が妥当。 ・居住期間満了後も、引き続きリノベーション住戸に居住するであろう世帯ではなく、子育てがおおむね終わられたら、持家世帯として退去可能な世帯を主に想定すべきで、親の年齢と住宅ローンを考慮。 ・間取りの問題。 ・リーフレット4ページ中、「市営住宅に応募した子育て世帯の内訳(平成26年度)」を見ると、末子が小学生までの子育て世帯の割合が65%となっている。</p> <p>小学生までが良いと思う。中学生までとすると、最短3年で退去が必要になり、引越し代など当該世帯の負担になる。</p> <p>小学生まででよい。中学生までとすると、居住できる期限が4～5年であり、入居してすぐに転居先を探すことになる。受験等子どもの人生にとって大事な時期に、住む場所が安定しないのは、望ましい環境とはいえない。</p> <p>小学校修了までの子どもがいる世帯で良い。 子どもが中学生になると、勉強に集中したい。プライバシーを守りたいと思うので、仕切りのある一般の市営住宅の方が生活しやすい。</p> <p>小学生までの子どもさんがいる世帯まで。</p>
3	高校生までの子どもがいる世帯が適当	<p>高校生、大学生、専門学校生を含めてほしい。</p> <p>対象世帯については高校生でも可としてもよいのではないかと。</p> <p>高校卒業までは応募できる世帯に加えた方が良い。 高校に行くということであれば、まだまだ親と子どもが互いの様子を見ながら家事や遊び、勉強は必要かと思う。</p>
4	応募対象の中で優先順位を設けるべき	<p>子どもの中でも手がかかるのは小学校低学年までだと思うので、その年代の子どもがいる世帯に優先的に入居できるようにするべきではないかと。</p> <p>市外からの世帯を優先するための基準を設けるべきではないかと。</p> <p>子育て世帯の中でも優先度を設けることができればなお良い。</p> <p>複数の子どもがいる世帯を優先してはどうか。</p> <p>応募多数の場合は、小さな子どもがいる世帯が優先的に入居できる制度が必要。 母子家庭、父子家庭に手厚く対応する内容にするべきと考える。単に子どもの要件で募集を実施すれば、応募倍率により、支援をより必要とする方が漏れてしまう恐れがある。 入居希望者が多い場合は、子どもの多さや年齢が低いほど入居しやすいなど考慮されるのか。応募規定はあっても、選定基準が不明では不安。</p>
5	応募対象に妊娠中の場合を含めるべき	<p>対象について、子どもの中に胎児、即ち妊娠も含めるべきではないかと。</p> <p>母子手帳の交付を受けている方を対象としてはいかがか。経済的な事情を踏まえると、子供が生まれている人も含めて、子供が生まれる前から支援するべきだと思う。(流産のような特別な事情があった場合は、公募自体を辞退していただくことの検討が必要かも…だが。)</p> <p>妊娠中で、入居予定日には出産しているであろう場合も応募できるのか。その場合は、病院から、そのことを証明する書類が必要となるのか。</p> <p>今後、もし拡大できるのであれば、妊娠中であるなど子育て世帯となることが確実に見込まれる世帯にも広げられれば良いと思う。</p> <p>初産の妊娠中の世帯は入居の仮申請ができるのか。</p> <p>お腹の中に赤ちゃんのいる世帯を含めるべき。</p>
6	応募対象に新婚やこれから出産を考えている世帯を含めるべき	<p>新婚生活から育児に入るので新婚を対象にしてほしい。</p> <p>出産を考えておられる方は初めから応募できたらいいと思う。</p>
7	その他	<p>震災による避難者は、京都にも多くいるが、平成29年3月で借り上げ住宅が打ち切りとなる。その中には、子育て世帯も多くいる。ぜひ同じように受け入れていただくとともに、またこのような事態が生じたときの受入体制作りが必要。</p> <p>入居制度については希望者は平等でなければならないと思う。</p>

優先的に応募できるのは、とても良いと思う。
就学の有無でなく、親の年齢で設定したらどうか。
住戸面積自体は広くならないのに、間取りを3DKから2LDKに変更すると必然的に、個室が少なくなる。そのため、原則、応募世帯の子どもの人数の制限をしてはどうか。
応募については、 1. 未就学の子どもがいる世帯については1階～2階 2. 小学生の子どもがいる世帯は3階～4階 3. 中学生の子どものいる世帯は4階～5階
若い人をもっと市営住宅へ入居してもらうには年収が問題となる。定収入がある方はもちろん、パートなども夫婦二人働くと結構な金額になる。今の基準では無理が生じるので、入居できる収入の上限を上げないと若い人は集まらない(家賃などは上げず)。
所得の上限額をもう少し高く設定して、応募枠を広げてほしい。
所得制限額をひき上げ、元気な家族が入居できるようにしてほしい。
所得制限額をひき上げ、誰もが応募できるようにすべき。

② 子育て世帯向けリノベーション住戸に居住できる期限の設定等について

(1) 入居期限に関する御意見

番号	要旨	御意見内容
1	末子が高校生(18歳になった年度末)までが適当	案のとおりで良い。 税金を投入しているため、ずっと住み続けられるのはおかしい。区切りをつける意味で、案で提示されている18歳までとすることが妥当と思う。 基本的に賛成。 子育てを終えられたら次の子育て世帯に入居していただくことが望ましい。子どもの高校修了を目安として、一番下の子(入居後に出生した子を含む。)が18歳になった年度末まで期間が必要だと思う。 子どもという意味では高校まででよい。 大学生になれば、様々な地域へ引っ越すことも考えられるので、この案で良いと思う。 期限付きで良いと思う。 この考え方で良いと思う。 現に生活をともにする子ども(末子が高校生未満)で一定の制限を定めることに異論はない。 案のとおりでいいと思う。 良いと思う。 大学卒業ではなく、高校卒業までで良いと思う。 総論は賛成。 まあまあ妥当な内容だ。 案どおりの期限設定で良いと思う。 妥当と考える。限りある住戸を、未就学児のいる世帯などのより適切な世帯に回していくことが大切である。 子育てで困っている人に提供できるなら、今の案でいい。 高校修了までの案でよい。 子どもの高校修了を目安とするのは適当。 期限の設定は適切だと思う。 これでよいと思う。 おおむね妥当。 高校まででいいと思う。 案のとおり、一番下の子が高校修了するまでが期限でいいと思う。 妥当だと思う。 市営住宅を「通過住宅」と考えるのであれば、入居期限の設定は問題ないと思う。

		<p>これで良いと思う。</p> <p>良いと思う。高校卒業時には、子どもは色々な進路が発生してくるだろうし、中学卒業時の引っ越しとなると高校受験等でバタバタすると思われるので、その時期に引っ越しはしんどいだろうし、住替えも中学入学あたりから考えられるのでいい時期だと思う。</p> <p>高校修了までというのは妥当。</p> <p>案に賛成。</p> <p>期限についてはこの設定で良いと考える。</p> <p>高校生までで良いと思う。</p> <p>制度として、子育てが一応終わった世帯に退去を求めるのは合理的である。入居者の新陳代謝が進み、市営住宅に住んでいる人の世代が特定の年代に集中することがなくなり、良い。</p> <p>良いと思う。頻繁に転居するのもあまり良くないので、応募資格と居住期限の期間が必要。</p> <p>期限は最長で子どもが高校修了までが良い。子どもも自立するこの時期がベスト。それまでは、高校受験の事もあるので、あまり生活環境を変えない方が良い。</p> <p>良いと思う。</p> <p>一番下の子が18歳になった年度末までが妥当。</p> <p>18歳までとしており、妥当である。</p>
2	末子が大学生(22歳になった年度末)までが妥当	<p>期間は短すぎる。現状、高校・大学と進学が多く、義務教育より高校以上の方が費用がかかる。この期限ではますます「お金のある世帯しか進学できない」状況となり、今の課題、「貧困による学習機会の喪失」が解決されない。大学卒業までが良いと思う。</p> <p>18歳まででなく、大学卒業までは期限が必要かもしれない。</p> <p>大学の進学率の高まりから、高校ではなく、大学を一つの目安とすべき。</p> <p>18歳よりも、22歳まで(大学ストレートまで)又は子どもが就職した段階で転居となるような設定はいかがか。</p> <p>子が大学で進学する際は期限を延期してもよいのでは。</p> <p>22歳になった年度末までの期限が良い。大学が最も授業料等がかかる時期であり、京都には多くの大学があることから、安心して大学まで進学できることを支援し、大学卒業するまで居住できることが望ましい。ただし、大学に進学しない世帯については、18歳になった年度末までにして良い。</p> <p>期限設定を末子が22歳又は大学卒業相当の年齢まで延長すべき。</p>
3	末子が成年(20歳)までが妥当	<p>末子が成人するまでを希望。</p> <p>18歳は大学入学や就職等があつて忙しいので、成人する20歳まで待ってもいいと思う。</p> <p>子どもが病気になる等の理由で高校修了が遅れたり、高校卒業後も、直ちに就職、進学が決まっていないケースも想定されるため、末子が20歳になる年度末まで期間を延長してはどうか。</p>
4	末子が中学生(15歳になった年度末)までが妥当	<p>下の子が高校卒業するなら、夫婦の年齢も上がっているので、転居するエネルギーがなくなると思う。中学卒業頃で十分だと思う。</p> <p>高校は義務教育過程ではないので、中学生修了までにして、循環を早めるほうが良いのではないかとと思われる。</p> <p>「末子が中学校卒業するまで」でよい。小さな子供がいる世帯向けの住戸が想定する暮らし方と、高校生の子供がいる世帯の暮らし方は明らかに異なる。全体の60%超を占める「末子が小学生までの世帯」の入居機会を減少させてまで、「末子が高校卒業するまで」入居を認める必要があるのか、大いに疑問である。社会通念上も、高校生を「小さな子ども」側に分類することに違和感がある。</p> <p>子どもの中学校修了を目安として、入居した世帯の一番下の子(入居後に出生した子を含む)が、15歳になった年度末(3月31日)までを、居住できる期限とすべき。</p>
5	末子が小学生(12歳になった年度末)までが妥当	<p>末子が中学校に入るまで。若い子育て世帯が生活しやすい京都を作るため、期間設定は必要だと思う。中学以降お金がかかるので、高校入学時に引越することは賛成が得られるか心配。</p> <p>子どもの小学校修了を目安として、入居した世帯の一番下の子(入居後に出生した子を含む)が12歳になった年度末(3月31日)までとした方が良い。</p>

6	末子の高校卒業を期限とするのではなく、一定期間の猶予が必要	<p>18歳になった時点より1～2年の猶予が必要である。</p> <p>年度末を期限とした場合、「卒業～期限」までの期間が短く、引越さなければならない入居者の負担が大きくなるように思う。例えば、引越し期間を含め、「4月末まで」とすることはできないか。</p> <p>低所得だから市営住宅に住んでいるので、せめて子供が就職し、1年働いて収入が入りだしてからの方が助かるのではないか。</p> <p>子どもが社会に出る頃まで、又は収入によって期限を融通してほしい。</p>
7	末子の中学校修了後1年(16歳になった年度末)までが適当	<p>中学校修了後1年以内</p> <p>※ 子どもの転校リスクは、高校入学以降は考慮不要。</p> <p>※ 受験勉強を考慮すると、中学卒業と同時に明渡は酷。</p>
8	何かしらの期限は設けるべき	<p>機会の公平性を確保するために期限の設定は必要。</p> <p>税金で建てられた建物を特定の人々がずっと住み続けるというのは不平等であり、期限を設けることは必要。</p> <p>限られた住居の提供となると、期限付きもやむを得ないと思われる。</p> <p>限られた住居を効果的に活用していくためには、期限の設定は仕方ないと思う。</p> <p>より多くの方が子育てしやすい環境が得られるのであれば、居住できる期限が設定されるのはやむを得ない。</p> <p>市営住宅の少子高齢化問題のため一定の期限の必要はあると思います。(住み続けることにより高校生が就業すれば、平均年齢が上昇するため。)</p> <p>期限を設けるべき。</p> <p>リノベーションにも費用がかかるため、住み替えてもらうことは、必要かと思う。</p>
9	個別事情により設定	<p>現在、理想として、高校卒業後、大学へ進学を望む子供も親もいる。</p> <p>長子、末子は考慮せずに、大学進学や就職といった子どもたちの望む方向・事情に合わせ決定すると良い。</p> <p>期限については、子どもの年齢だけでなく、親の病気や失業等幅広い観点が必要になるかもしれない。</p> <p>子供が小さい頃から一緒に育ってきたのであれば、一律に期限を設けるのは、やめた方が良い。</p>
10	期限は設けなくて良い	<p>期限を設定するのはどうかと思う。地域の生活に慣れるまで時間がかかるのに、入居期限を設けると将来不安になると思う。</p> <p>高齢者に落ち着いた生活をさせるためにも居住制限はなくても良い。</p> <p>現在、自治会長をしているが、若い世帯には、自治会の中心的役割を担っていただき、長くとどまってもらいたいため、期限の設定は設けないでほしい。</p> <p>期限付きの入居はちょっと賛成できない。この頃は、大学に進学する子がほとんどであり、大学入学の年に家を出ないといけないうのは本当に可哀想。</p> <p>小さい時から住んでいる家にずっと住みたい。</p> <p>子供が一定の年齢になれば出て行かなければならないという趣旨は一定理解するが、実際住む人にとっては負担になるのでは。</p> <p>入居した時点から、入居期限があるのは少し抵抗がある。</p> <p>大学入学時にお金が必要になる際、生活が不安定になる。</p> <p>子供が18歳になれば親も年を取り、そこでの住替えは大変である、また、40代～60代の人たちは地域活動にとっては大切な人材である。子育てが終わったあとも、いつまでも居住できるようにすべき。</p> <p>子どもが18歳になっても、希望する世帯は引き続き住めるようにすべき。</p> <p>期限を設ける意図がよくわからない。</p> <p>子育てを終えても、それが住みやすい住宅であれば、そのまま居住できればいいと思う。</p> <p>期限後に転居させるより、別の空き住戸を新たにリノベーションしてはどうか。リノベーション仕様は高齢者にも優しいはず。</p> <p>子育てが終わっても住めるようにすれば良いと思う。大学に通う場合などは、お金もかかり、環境も変わるので、それらの負担が引越しによって大きくなる気がする。居住スペースは、誰も快適なものが良いと思う。「18歳だから出て行って」ではなく、空き室を随時リノベーションして、新しい子育て世代の入居者を入れる方が良い。</p>

11	その他	期限後は、減免を適用せずに、住んでもらってはどうか。
		居住期間の満了後、必ず転居しなければならないとなると、応募を躊躇する要因にもなるので、居住期間の満了後は家賃が高くなるなどの選択肢があっても良い。
		引越は大変なので、子育て後は家賃を差を付けるなどして、希望されるならいつまでも居住できるようにして欲しい。
		少子化とは逆行するような想定なのであり得ないかもしれないが、繰り返し出産と子育てを繰り返せば、かなりの長期間の入居が可能となるが、この辺りについてはどう考えているのか。
		一番下の子が18歳になるまでに子どもを産んだ場合はどうなるのか。
		万が一、子供が死亡したり、病気により入院生活が長くなった場合、期限の設定はどういう検討をされるのか。すぐさま転居になるのか。
		供給する戸数で判断すべき。期限を設けて次回の人に応募機会を与えないといけないほど、不足しているなら期限は必要。戸数が十分多いなら制限は不要。

(2) 期限後の退去・住替えに関する御意見

番号	要旨	御意見内容
1	期間満了後、他の市営住宅への住替えを認めることは必要な措置であるため、円滑な住替えが可能となるよう、しっかりした制度構築をしてほしい	住替えがスムーズにできる仕組みを考えてもらいたい。
		住替え制度もしっかり作ってほしい。
		実際に住み替える場合の対応や、住替えを拒まれた場合の対応など、各論になると不明な点が残る。制度を確立し、運用してもらいたい。
		住替えのイメージがわきにくいので、しっかりとした仕組みとすることを望む。
		子育てが終わったとたんにそこでシャットダウン的な扱いは難しいのではないかな。
		期間の設定よりも、住替えの制度をうまく作らないといけないのではないかな。特殊な事情が発生した場合は、もめる原因となるかもしれない。
		円滑な住替えができるよう、柔軟な仕組みが要ると考える。
		退去の時にスムーズな転居が可能となるようにする必要があると思う。
		3～5年前からの住替えについては、居住者の立場に立った相談をしっかりしてほしい。
		居住期間満了後の一般の市営住宅への住替えが容易なのか困難なのかが気になる。子どもが大学進学するタイミングで、市営住宅を退去して、民間の住宅へ移ることは負担が大きいのではないかな。
		一般住宅への住替えを居住期限の3～5年前に設定することについては、条件を満たせば一般市営住宅に確実に(優先的に)住替えできるという意図か。「3～5年前」の条件付けに至る理由や一般市営住宅や民間住宅へは特段の優先権はないが転居可など、分かりやすくした方が良くと思う(なお、入居時中学3年生、3年以内に18歳なら、入居すぐに住替え可か。)
		子どもが大きくなった後、市営住宅に移れるようになっているのは、移る用意や準備があれば良い考えだと思う。
		市営住宅への住替え制度が設けられており、良いと思う。
		住替えとセットで良い。
住替えあっせんの対応でよい。		
住替えができる仕組みを設ける事によって安心して生活できると思う。		
住替えを活発になるようにすべきでは。		
住替えの考え方も良い。		
退去後の家をあっせんするなど丁寧な対応が必要。		
2	入居期間についての丁寧な説明や計画的な退去支援を行うことで、期間満了後は、確実に住戸を明け渡してもらうようにすべき	大抵は期限を超過するものと思われるため、周知や約束を順守させる仕組みや規定を整備しておく必要があると思われる。
		車いす専用住宅と同様に居座られるのではないかな。
		居住期限までに退去していただける家庭ばかりではないはずなので、期限までの確実な退去をどう担保するのが難しい。
		子育て世帯としての扱いが終わるまでの期間を計画的に支援し、計画的に支援から巣立っていけるようなプログラムも必要ではないかな。
		退去時期を丁寧に説明してあげたり、負担にならない策を考えてあげてはどうか。3年～5年で住替えを認めるだけでなく、支援するとか。

		<p>期限を設けるのであれば、退去時もめないよう周知徹底の必要あり。</p> <p>居住要件を満たさなくなった場合の取扱いは、十分に説明する必要があると思う。 ※離婚、死亡等により同居の子どもがいなくなった場合や一般の市営住宅への住替えに係る取扱い等。</p>
3	地域における交流関係や生活を考えると、同じ団地内にある近くの市営住宅への住替えを認めるべき	<p>子育てが終われば、同じ団地の別の住戸に移ってもらうなど、自治会が維持できる方策を考えてもらいたい。</p> <p>子育てを終えた後も、地域に根付いてもらえるのであれば、団地内に残って欲しい。そうしたことに配慮した住替えの制度化が必要。</p> <p>コミュニティバランスと引き続き居住することの両立を見越した取り組みをきめ細かく定めておくことが必要で、原則、無期限だが、子どもが大学を修了した段階で、隣接する住居に転居いただく場合がある、といった条件を整備していく必要があると思う。</p> <p>居住期間満了後、市営住宅に継続して居住希望される場合には、特に同一団地内で住替えが可能となるよう十分配慮されるべき。</p> <p>地域での交流関係を維持するためにも、居住期間を終えた後の住替え先は、同一団地など、できるだけ近場で確保する方が良いのではないかと。</p> <p>生活を考えると近くの市営住宅に移転できるようにしてもらいたい。</p>
4	期限の5年前から住替えを認めるべきである	<p>住替え制度を具体的に決めておくことが重要であり、3～5年前というアバウトな決め方ではなく、5年前からと明確にすべき。</p> <p>住替えは3年前よりも、5年前から認めて、早めの転居が可能にすべき。市営住宅の一般公募への申込みも可能とすべき。(より多くの子育て世帯にいきわたるようにするため。)</p>
5	住替え先については世帯の希望に合わせるべき	<p>期限後、できるならその団地に転居してほしいものの、転居については、所帯の希望に任せてほしい。</p> <p>住替え先の一般の市営住宅は希望を聞いてもらえるようにしてほしい。</p>
6	その他	<p>期限後、ニーズにあった住替え用の市営住宅はあるのか。</p> <p>従来の市営住宅より、ずっと設備が良くなるので、老後まで住みたい世帯であれば、シャワーや給湯のない部屋へ移るのは抵抗があると思う。</p> <p>子育てしやすい間取りは、老人にも住みやすいものである。</p> <p>子育て後の住替えについても、ある程度リノベーションされた住宅が必要だと思う。</p> <p>住み替える前提で入居するので、住替えは必ず自己負担とし、税金を投じるようなことには絶対にしてほしくない。</p> <p>期限の3～5年前とするのではなく、「〇年間継続して居住した世帯」を対象としてはどうか(0歳の子を持つ世帯が入居した場合、13～15年間、住替えが認められないのは辛いと思う)。</p> <p>子育てを終わった親世代の年齢になると、民間住宅に入居しようにも保証人の確保もままならないケースが多々あると思うので、保証人なしでも最優先で民間住宅に低コストで入居できるシステムづくりが必要になる。</p> <p>住替えについては、小学生の子ども世帯には同じ学区のURへの転居プランを提示したり、中古住宅へ転居しやすくなるシステム化を行うべき。</p>

③ その他の御意見について

(1) リノベーションの取組に関する御意見

番号	要旨	御意見内容
1	取組に期待、賛同する御意見	<p>市営住宅では、最近、新婚夫婦や30代の若者の入居が少なく、高齢化が進んでいる。若者を取り込む為にも是非進めてほしい。</p> <p>良い試みだと思う。</p> <p>洛西ニュータウンが元気になってほしい。</p> <p>洛西ニュータウンに住んでいるが、高齢化が進んでいる。こうした取組を進めないと団地の活性化につながらないので、ぜひ進めてほしい。</p> <p>リノベーション住戸の早期の実現に期待している。</p> <p>少子高齢化の原因として、子どもを安心して育てる環境が減ってきているため、住環境の費用を安くすることは、有用な施策であると思う。</p> <p>高齢化で空き家は増えていくので、むしろリノベーションする住戸をどんどん増やすという方向で考えた方がよい。</p> <p>こうした取組を今後も続けることが大事だと思うので、今後も継続してもらいたい。</p>

		<p>今回だけではなく、継続して取り組んでほしい。</p> <p>以前から入居している方は定年を過ぎ年金暮らしの方が大半の状態であり、部屋を若者向きに改装しないと今のままでは無理。以前から入居している方の不満も出るだろうが、先を見据えてやらないと何も前へ進まないと思う。</p> <p>向島や洛西ニュータウンだけでなく、市内中心部の改良住宅も、空き家が増えているので、供給することが望まれる。交通の便が良い場所に建っている場合が多いので、喜ばれると思う。</p> <p>子どもが増えたり、大きくなると面積の広い住宅が必要になるので、子育て世帯向け住宅というアイデアは良いと思う。</p> <p>気持ちよく子育てできる環境を整えるのは良いことだと思う。</p> <p>子育て世帯が市営住宅に入居してもらうのは結構なことだと思う。私が入居している市営住宅も、高齢化が進んでおり、若い世帯が増えることを切に望んでいる。</p> <p>親子ペア住宅の空き住戸を活用してはどうか。</p>
2	団地、地域の活性化に関する御意見	<p>子育て世帯は忙しく、なかなか地域活動に参加してもらえないかもしれない。地域活動に興味を持ち参加してもらえる人に来てもらいたい。そうした入居制度はできないのか。</p> <p>どれだけ仕組みを整えても、今住んでいる人達が新たな居住者を迎え入れる気持ちがなければ意味がない。</p> <p>高齢化した団地の活性化のため、自治会など、交流のきっかけづくりになれば良いと思う。交流が進めば我慢もできるようになり、「泣き声がうるさい」「どンドン響く」といった苦情も減少する。</p> <p>どれだけ子育て世帯が入っても、今住んでいる人達との交流がなければ意味がない。そのような仕組みも必要ではないか。</p> <p>京都市では既にコミュニティ条例が存在することから、入居の条件、契約に、同条例第6条を明記し、地域コミュニティへの参加を促してはどうか。</p> <p>以前から入居の方にはよく説明して理解して頂くこと。このままだとゴーストタウンになってしまう。</p> <p>入居を優先する世帯の基準を設け、地域活動への取組などを要件としてほしい。</p> <p>リノベーション自体は悪くないと思うが、色々問題があると思う。せつかく取り組むのであれば、入居者全体のことを考えてもらいたい。</p>
3	リノベーション住宅に否定的又は慎重な検討を求める御意見	<p>子育て支援には大いに賛成するが、市営住宅に住む人だけが極端に優遇されるといったことにならないよう、過度な税金の投入はやめてほしい。</p> <p>リノベーションの費用を超える効果があるのか。</p> <p>これから人口の減少傾向が続き、民間の賃貸物件はどんどん空き家が増えていくのに、子育て世帯向けのリノベーションを行う意図は何なのか。税金の無駄遣いは絶対にやめてほしい。</p> <p>民間の賃貸住宅で生活している方と著しくバランスが欠けることがないように改修内容を検討してほしい。</p> <p>リノベーションせずに、現状の方法のままで良いのではないか。</p> <p>公園や集会所などのハード面の環境やコミュニティの状況と併せて、子育て世代が市営住宅に入るメリットや、なぜ、市営住宅で子育て世代を受け入れていこうと考えたのか、もっと強力なメッセージがないと、何のためにこのような事業に取り組もうとしているのか意図がわからない。</p> <p>現在の市営住宅に占める世代割合、単身者・子育て世代のデータが示されていないので、本気で子育て世代を呼び込みたいという気合がみられない。</p>
4	リノベーション住戸に関連する取組の御提案等	<p>子ども(特に小学生)は騒がしいことが当たり前なので、上下左右の部屋が子育て世帯向けなら、親も安心して生活できるのではないか。</p> <p>子育て世帯は、階下への音の影響を気にする方が多いと思うので、1階等の住戸を優先に子育て世帯向け住宅を考えたらいと思う。</p> <p>市営住宅の空き家を利用した保育園の整備や近隣保育園への優先入園をシステム化すべき。</p> <p>未就学児を育てる世帯にとっては、住まいの間取りだけでなく近隣の保育所に入所できるかどうか重要な考慮要素なので、子育て支援施策との連携もお願いしたい。</p> <p>団地内にコンビニがあれば利便性も上がる。</p> <p>交番があれば犯罪防止にもつながるだろう。</p> <p>供給戸数はどのくらいか。</p>

		<p>子育て世帯の定義が分かりにくいように思う。人によっては高校生の子を持つ世帯も子育て世帯と考える方もいると思う。</p> <p>子育てを終えた世帯向けのリノベーション住戸も併せて作ってみては。</p> <p>リノベーションする部屋は、住棟内で固める方が良い。その方が子育てしやすく、子育て世代からすると魅力ある市営住宅に見える。</p> <p>普通に公募すると、母子世帯ばかりになると思う。別宅にならないような制限は必要であり、特に、実質は親の一人住まいということにならないようしっかりと目を光らせておいてほしい。</p>
(2) 間取り・設備に関する御意見		
番号	要旨	御意見内容
1	広々とした間取りに関する御意見	家族だんらんができるように、広いリビングがあったほうが良い。
		親が家事をする傍らで子どもが遊びや勉強をすることができるように、和室を一体的な間取りへと変更することは良い考えだと思う。こうすることによって、親と子供が互いの様子を見ることができる。
		寝室は親子一緒の一室にして、それ以外の部屋を一体的に使える間取りにすれば良いのでは。
		広々とした一体的な間取りにおいては、和室をうまく活用したらどうかと思う。
		リビングは、家族が自然と集まる場所となるよう、できるだけ広く取り、開放感がある方が良いと思う。
		個室は必要最小限(4畳半が2部屋ほど)で構わないと思う。
		小さな部屋を多く作るのではなく、生活スタイルに応じた使い方ができるように広い部屋にしてほしい。
		小学生までのニーズに沿った設計でよい。中学を過ぎると子供部屋が必要になりニーズが変わる。
		現状の3DKを2LDKに変更するなど、小さな部屋に分割するのではなく大きな間取りが良い。
		台所からすぐの和室は仕切りなしの方が子供が小さいうちは良い。目が離せない時は仕切りがあると邪魔になる。
		市営住宅は設備が古く、狭い和室に区切られた閉鎖的なイメージがあり、子育ての環境として不向きだと思う。広いリビングがあり、家事をしながら子どもを見れる間取りが良いと思う。
		オープンキッチンが良いのでは。
		料理を作る親と子どもの視線が合うように、対話型キッチンを設計すればどうか。
カウンターキッチンが良い。		
親がどこに居ても子どもを見渡せる環境を作ってほしい。		
2	子ども部屋の必要性に関する御意見	中学生になると部屋が欲しいと思うので、間取りを多くしてはと思う。
		子どもが成長したときのため、子ども部屋が最低2部屋あると良いと思う。
		中学生、高校生のために、小さくてもいいから1人部屋を作ってあげたい。
		子どもが大きくなると部屋を分けるためにいるので、ふすまが良い。壁の間に収納できるふすまだと破られないので良い。
		親と子どもが互いの様子を見ながらというのが、中学生の子どもが心地良い住まいかは疑問。できる限り顔を合わせない間取りの方が良い時期かと思う。
3	和室に関する御意見	子供たちに最初からフローリングやドアしかない生活環境ではなく、日本の住まい方が感じ取れる間取り、「和室」が大きな意味を持つのではないかと。ぜひ、畳の上で子供たちが遊び、学べる空間を残していただきたいと思う。
		子育て世帯向けということで、一律にフローリングにするのではなく、少しは畳の部屋も残すほうが子供の記憶の中に日本文化が残し、継承させるのではないかと。そういう間取りも考えてほしいと思う。
		子どもはリビングで勉強することが多い。リビングに隣接する和室があり、ふすまで仕切れる現在の間取りは良い。
		単純な発想だとリビングと洋室になると思うが、小さくても良いので畳のスペースを取り入れた方が良い。

4	台所、浴室等の水回りの設備に関する御意見	<p>浴槽が風呂釜のため、またぎ高さが高く、高齢者が浴槽につかるには苦労している。全戸、給湯器やシャワーを設置してもらいたい。</p> <p>風呂の浴槽は低いのがいい。</p> <p>住戸の設備として、シャワーの設置は不可欠かと思う。</p> <p>浴槽を低くして子ども、老人が入りやすくしてあげたら良いと思う。</p> <p>シャワー付きの浴室になると良い。</p> <p>水回りの整備。</p> <p>子育て世帯は親子で入浴する場合が多く、浴室・浴槽には余裕が欲しい。</p> <p>子育て世帯に住んでもらうのであれば、お風呂や台所を新しくしなければ、入ってもらえないのではないかと。(私も子育てしながら以前洛西ニュータウンの市営住宅に住んでいたことがある。)</p> <p>小さい子どもが居る家庭では、シャワーは必需品になると思うので付けて欲しい。</p> <p>節水とライフスタイルに合わせた水利用の観点から、シャワーと給湯器は必須。</p> <p>トイレは全て洋式にする必要がある。</p>
5	収納・防音・フローリング等に関する御意見	<p>子育て家庭で集合住宅に住む際の一番の問題点は、騒音であり、両隣、上下のひびきが少しでも軽減出来るようなリノベーションを考えていただけたらと思う。</p> <p>階下への足音などが問題になりやすいので、床はクッション性の高いものが良い。</p> <p>防音なども必要では。</p> <p>子どもの足音等の騒音でトラブルになることが多いので、床はカーペットか防音対策をしておいたほうが良いと思われる。</p> <p>防音をしっかりとする必要はあると思う。</p> <p>フローリング(クッションフロア)の設置。</p> <p>集合住宅での子育てで常に気を使うのは“音”の問題であり、近隣との円滑な関係を築けてこそ安心の子育てを実現できる。防音や階層の選択、周囲への配慮など、提供者側の取組も重要かと思う。</p> <p>小さい子どもは、ドタドタと歩くので、体が小さくても、意外に足音は大きく響く。近隣や階下への影響も考え、柔らかく厚めのフローリングにするなどの工夫が必要と思う。</p> <p>上下の音が響くので、防音装置をつけてほしい。</p> <p>子どもが走り回っても音が響かないよう二重床とするなど防音対策が必要。</p> <p>騒音対策すべき。</p> <p>リビングの床は、子どもが食べ物をこぼしても、掃除がやりやすく、シミになりにくいフローリング仕様助かる。他の部屋も、和室は子どもが本当に小さいときは助かるが、やはり、掃除のしやすさとアレルギーのことを考えるとフローリングの方が良いかと思う。</p> <p>リビングは、フローリングで床暖房があった方が良い。</p> <p>間取りについて、乳幼児がいる世代は和室が一室ある方が重宝するが、二部屋以上は不要。幼児期以降は動き回るし、洋室の方が良いと思う。</p> <p>収納力はできるだけ確保したほうが良いと思う。</p> <p>押入れの1つがクローゼットならいいなと思う。</p> <p>ベビーカーや子どものクラブ用品などが置けるから、玄関は、ホールは狭くても構わないので、土足部分が広いと助かる。</p> <p>収納もできるだけ多くして家具を少なくできる工夫があると、転落事故などが防げる。隣の家との間に収納があると、防音にもなる。</p>
6	その他の御意見	<p>子育てには年齢と人数に応じた住宅内部の間取りや設備への可変性が必要だと考える。そういう観点からも間取りの検討をお願いしたい。</p> <p>子どもの成長に合わせて仕切りで間取りを変えられるようにしては。</p> <p>成長に合わせて、部屋の間取りを変えられるようにしてほしい。</p> <p>約20年近く居住することになるので、部屋の間取りを、フレキシブルにできる方が良い。</p> <p>入居者の年齢や好みに応じて、入居後、変えることができるように、細かく分かれた部屋でなく、広さが必要ではないか。</p> <p>子どもの成長過程に応じて入居者が容易に間取りを変えられるよう、間仕切り壁を採用してはどうか。</p>

乳幼児から小学生まではオープンなスペースで家族とのつながりを持たせる間取りが良い。中学生から高校生においては思春期となることから、一定のプライバシーが将来的に確保できればより良いと考える。
パーティーやアコーディオンカーテンで仕切れる部屋が良い。
今よりも改善するのであれば、どんな間取りでも良いと思う。
どのような間取りでも工夫すれば、子育てしやすくなると思う。また、子供が中学生になれば、親の目から離れたと思うだろう。お金をかけてリフォームしても、活用されなければ何にもならない。空き家が目立つ団地については小手先のリフォームではなく、建て替えすべきだと思う。
リノベーションの間取りは学生の意見を取り入れるのではなく、やはりプロに任せた方が良いと思う。学生は素人であり、教育機会の場を公共の住宅に適用するのはどうかと思う。
子どもが小さいうちは、狭いぐらいの方が距離感が近くて楽しく暮らせると思う。
間取り改修の半額補助等を行い、子育て世帯・新婚・若夫婦等を団地に入れて活性化を図るべき。現状は、自治会のボランティアは60歳以上の人がばかりで高齢化しており、静かすぎて暗い。
壁沿いに勉強コーナーを設けてはどうか。
市営住宅の共用部分は、ほこりっぽく、不衛生な所が多い。小さい子のいる家庭でそのような所に住ませたいと思わないのではないかと。清潔第一のリノベーションを検討してもらいたい。
小さな子ども達を安心して遊ばせられることができ、より魅力的な住んでみたいと思えるような市営住宅の環境にすべきであり、住戸のリノベーションだけでなく、街区内の公園施設の整備・リニューアルが特に必要と考える。
コミュニティバランスの改善を達成するためには今まで市営住宅を考慮に入れていなかった人々の関心を引く必要がある。子育て世帯にとって重要なことは、室内(間取り)以外の団地全体の環境や、小学校を含めた環境である。部屋の間取りの改善だけでなく、子育て世帯にとって魅力ある団地にするために総合的な取組もモデル的に取り組んでほしい。(外観の修繕、公園・花壇の改善、小学校教員の配置の考慮(団地の生徒の支援に熱意のある教員の配置)など)。
果たして設備や間取りのみで、若い子育て世代が入居を希望するのか。昨今、騒音等による近隣トラブルが増えていることから、幼い子供を育てる親にとっては、設備以上に近隣環境が重要に感じているのではないだろうか。
部屋の間取りや設備だけでなく、団地内の環境も大切。小さい子どもが安心して楽しく遊べる明るいイメージの公園等があれば良い。自転車置場や団地内の道路が安全であること、団地自体が明るいイメージがあることも入居希望につながる。
お金がかかる子育て世帯にとって、リノベーション住戸に住めることは大きなメリットとなる。住宅回りの環境が充実していれば一層良いと考える。
玄関扉は子どもの手の届かない位置に鍵をつける。
小さい子どもの事故の一つに、ベランダからの転落が考えられる。ベランダの柵の高さ形状等の配慮が必要だと思う。
ベランダからの落下防止柵を設置すべき。
台所を小さい子供が勝手に入れないように仕切れるようにできれば良い。
子供が伸び伸び育つよう落書きし放題の壁、床にする。(退去時に現状復旧を求めない。)
幼い子供がいると、壁に落書きをしたりすることが考えられるが、その点は配慮して、退去時の原状回復費の算出をしてもらえるのか。
エアコンの適正利用を促すため、全ての窓に網戸をつける必要がある。
シャワー、給湯器は、子育て世帯でなくても必要である。
リノベーション前の住戸の設計が悪すぎるのではないかと。
子育て世帯向けに専用庭を設けられる住戸があれば良いと思う。
脱衣所にはプライバシーの観点からアコーディオンカーテンや衝立などが必要。
ベビーカーを使いやすくするため、スケルトン(透明)タイプのエレベーターがあれば良い。
生活の仕方はそれぞれ工夫のしようもあると思うが、設備はどうしようもないので、新しくした方が良いと思う。

(3) 入居・家賃等の制度に関する御意見		
番号	要旨	御意見内容
1	家賃の減額等に関する御意見	子育てにお金がかかるので、子どもの数に応じた家賃の減額をして欲しい(少子化対策)。
		小学校の世帯がメインかと思うので、小学生の間は家賃を減額するなど、小学生世帯がより入りやすい仕組みがあれば良いと思う。
		賃料がどれ位になるのか気になる。民間よりも低額にするとか、保証代とかは取らない等の工夫が必要だと思う。公営住宅には入れないが、民間賃貸住宅は高すぎるといった収入の、20歳～30歳の働き盛りの層の人たちが、入りやすい金額を設定したら希望者が増えると思う。
		家賃計算については世帯主だけの収入によるべき。
		収入によって家賃が異なる制度であれば、入居しないのでは。
2	自立支援、生活支援に関する御意見	子育て世帯という稼働年齢層であることを考えると、応募の際に、入居したら収入増に努める等の条件を付することはできないか。
		収入増に向けた取組を行っている世帯は退去勧告するなど、自立への取組を促すことはできないか。入居世帯が「子どもが高校卒業までは入居できる」という安心感も必要だが、「ここを出て、自立した生活をしていくようがんばろう」と思ってもらうことも必要ではないか。
		福祉部局では生活困窮者への支援にも取り組んでおり、これらと連携して、必要であれば生活支援を受けてもらうことはできないか。
3	その他の御意見	子育て世帯が入居したいと思えるエリアが選定されるべき。また、特定のエリアに限定することなく、様々な市営住宅で子育て世帯が入居できるようにするべき。
		住みたい棟や住みたい階数を選んで応募できないものだろうか。空き住戸ごとに、一定期間公募し、複数の応募があった場合に抽選とすれば、年4回の公募に限定する必要もない。
		募集しても空いている住宅は一般に開放して、入居することが出来るように制度変更してはどうか。
		既存の入居者と新規の入居者を別棟に分けて、素行の良い家庭を優先的に入居させるシステムが望ましい。
		中学生や高校生がいる世帯への配慮が政策的に必要であるならば、「一般住戸」への入居の要件を緩和する等の措置を考えるべきである。
(4) 市営住宅施策全般に関する御意見		
番号	要旨	御意見内容
1	市営住宅の改修に関する御意見	この取組以外でも、市営住宅を改修した方がよいと思う。
		これからの部屋作りはバリアフリーにしたら小児から老人まで住みやすくなると思う。
2	市営住宅の建替えや新築に関する御意見	今あるものの改善をせずに、税金を投じて建替えをする方が、問題であり、金があればともかく、金がなければ建替えはやめるべき。
		今後人口が増えない中で、市営住宅の位置付けも変わってくると思う。新築供給は、税収が減少することを想定すると将来にツケを残す。一方、既存の施設を更新するのも既存の状況により無理が生じる場合がある。今こそ全体のバランスを考えるべきと思う。
3	その他の御意見	小学校区の中に市営住宅がなく、しかしマンション等を借りるほどの収入もない場合、大変困る。転校させるのもかわいそうなので、小学校区に1つは市営住宅がほしい。事情により、家がなくなり、どこか住居を探さないといけない場合も多くあると思う。
		小中学校を選択制にしてもらえるとありがたい。
		新築でも子育て世帯向けの住戸を供給してほしい。
		高校生、大学生の間は、小中学生のころに比べて、各段に教育費がかかるため、住宅費用を抑えたいというニーズがあるが、京都は外的要因により地価や家賃が上がっているため、市民ニーズが満たされない。
		小動物の飼育を許可するなら棟を決めたら良いと思う。
		公共交通の利用を促す観点から、マイカー所有者の入居は認めず民間住宅に行っていた方向が望ましい。

(5) その他の御意見		
番号	要旨	御意見内容
1	御意見徴取方法について	子育て中のお母さん、お父さんの意見も参考にしてもらいたい。
		大学生の意見より、主婦の意見を取り入れるほうが良い。また、女性だけでなく、イクメン(育児をする男性)・カジダン(家事をする男性)の意見も取り入れてほしい。
		間取り・設備等の検討については、とりあえず数戸改築し、モデル世帯に入居していただき、実際の生活の中から意見を聴取し今後に反映させるほうが、より現実的な意見が集まると感じる。
2	同右	インターネットをしておらずホームページを見ることが出来ないの、方法を考えてほしい。

※ 上記の御意見内容については、原則頂いた御意見をそのまま記載していますが、次のとおり分類したり、表現を改めている場合があります。

- ・ 語尾を「ですます調」でなく、「である調」に統一しています。
- ・ 御意見を御記載頂いた項目区分(①子育て向けリノベーション住戸に応募できる世帯について、②子育て世帯向けリノベーション住戸に居住できる期限の設定等について、③その他の御意見について)と頂いた御意見の内容が合致しない場合は、適切な別の項目区分に御意見を分類しています。
- ・ 一通から複数の御意見を頂いた場合は、上記の各要旨区分に御意見を分類しています。
- ・ 一通から頂いた御意見のうち内容が重複している場合は、当該御意見をまとめています。
- ・ 御意見に誤字や脱字、常用漢字外が含まれている場合は、改めています。
- ・ 個人情報や固有名詞、不適切な表現については、省いています。